HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Effects of Quality Management Measures Based on the Use of Project Management Information System for Project Management Success of ERP Implementation [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	谷口, 篤
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(情報科学)
Dissertation Number	甲第13529号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74321
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Atsushi_Taniguchi_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

博士の専攻分野の名称　博士（情報科学）　氏名　谷口　篤

学 位 論 文 題 名

Effects of Quality Management Measures Based on the Use of Project Management Information System for Project Management Success of ERP Implementation

（ERP 実装におけるプロジェクトマネジメント成功のためのプロジェクトマネジメント情報システムの利用に基づくクオリティマネジメント処置の効果）

最近の研究ではプロジェクトマネジメント情報システム (PMIS) を利用することによる、クオリティマネジメントシステムの要求事項を向上させるための実装の応用を提供している。

広範な学術論文の文献レビュー調査の結果、事例研究法が PMIS の利用に基づくプロジェクトマネジメントの継続的な品質改善を追求する本研究で選択した、「PMIS 出力情報の品質改善の効果」、「Q-Gate プロセスを開始するための効果的な PMIS の使用」、および「品質監査を実施するための教訓の有効利用」から成る三つのクオリティマネジメント処置の効果を評価するために用いられた。

PMIS 出力情報の品質を改善するためのクオリティマネジメント処置に対して、本論文は PDCA サイクルに基づく継続的な品質改善が、どのようにソリューションプロバイダーによる日本の様々な業界の顧客のために実装した ERP プロジェクトのプロジェクトマネジャーが、プロジェクトマネジメント情報システムから生成するプロジェクト現況報告書の報告内容の品質に対して、プロジェクトマネジメントの成功を達成するために実施されたかを論じている。2017 年 1 月から 9 月までの 9 カ月間に終了した 9 対象プロジェクトのスコアカードのデータに基づく本研究の結果、PMIS の報告内容の品質の継続的改善は PMIS 出力情報の品質の達成することで管理者をプロジェクトの意思決定、計画、組織、統制の観点から援助するうえで有効であることが判明したことを示している。また、時間、コスト、品質尊重の観点からプロジェクトマネジメントの成功達成のために好ましい影響を与えるうえで、有効であることが判明している。

Q-Gate プロセスを開始するためのクオリティマネジメント処置に対して、本論文はどのようにソリューションプロバイダーによる日本の様々な業界の顧客のために実施した ERP 実装プロジェクトで Q-Gate プロセスを実装するために PMIS が使用されたかを説明している。PMIS に維持されいる Q-Gate コントロールリストにある 2017 年 4 月に実施を計画されていた 4 対象プロジェクトのデータに基づく本研究の結果は、4Q-Gate レビュー全てが時間内に承認されて完了したことにより、PMIS は各 Q-Gate レビューのために設定されたスケジュールに基づく Q-Gate プロセスをタイムリーに開始することをプロジェクトマネジャーを特定、通知して、影響するうえで有効である

ことが判明したことを示している。

収集された教訓を再利用するためのクオリティマネジメント処置に対して、本論文は PMIS の利用により第三者クオリティレビュアーとプロジェクトマネジャーで確定したプロジェクトレビュー実施日に基づく正式な品質監査が必要と特定された具体的なプロジェクトのプロジェクトレビューを開始するための体系的なアプローチを説明している。そしてプロジェクトレビューが関連する過去の ERP 実装プロジェクトのプロジェクトレビューから収集された教訓データを教訓レポジトリーからプロジェクト文書レビューとプロジェクトステークホルダーインタビューを実施する準備のために回収することにより開始される。事例研究方法論がソリューションプロバイダーによる日本の様々な業界の顧客のために実施した ERP 実装プロジェクトの 2014 年から 2017 年までの 4 年の期間から回収された過去の教訓データでどのように期間中の前期のプロジェクトのプロジェクトレビューから収集された教訓が後続プロジェクトのプロジェクトレビューで再利用されたかを分析するために適用された。過去のプロジェクトレビューの結果に基づく教訓の利用は、プロジェクト文書レビューとプロジェクトステークホルダーインタビューを実施するプロセスで具体的な改善が予測された分野に注目することと、正式に品質監査の結果として顧客に提示、提出するためのプロジェクトレビューの結果を最終化するために所見に対する実用的な推奨事項をまとめるうえで有効であることが判明した。

結果として、全て三つのクオリティマネジメント処置に対して、PMIS はクオリティマネジメントシステムの要求事項を向上させるためと、時間、コスト、品質尊重の観点からプロジェクトマネジメントの成功達成のために好ましい影響を与えるうえで、有効であることが判明した。